



もちつき大会

昔はどこ家庭でも見られたこの風景。今となってはとても懐かしく感じられるようになりました。

12月6日(土)、桐島小学校で毎年恒例のもちつき大会が行われました。まずは「お手本」と、父兄が慣れた手つきでもちをつき、それを真似して子供たちが順番につきました。

つきたてのおもちを食べながら、体育館は、しばし熱気と笑い声につつまれました。



平成10年1月1日発行
発行/和島村役場
編集/地域振興課
〒949-4511
新潟県三島郡和島村大字小島谷3434番地の4
TEL 0258-74-3111
FAX 0258-74-2791



よう きなさったね

北野 高尾香保子さん

私はこの夏に結婚に伴い、和島村に参りました。実家は燕市ですが、結婚まで東京で一人暮らしをしていました。
嫁ぎ先がお寺ということもあり8月は忙しく慣れないままろうろするばかりでしたが、ふと気付けばたくさんの方に、自然のこと、村のこと、生活や料理のことなど少しづつ、いろいろなことを教わりました。東京では地域での人と和島村で、気さくでおおらかな方々と、豊かな自然に迎えていたことをとてもうれしく思っています。

暮らし始めて生活に不便を感じることはありませんが、免許のない方やお年寄りには多少の不便さはあるのだと思います。村の協力はもちろん、家族や近所の助け合いは必要かと思えます。
生活に直接は関係しませんが、今一番ほしいのは、いろいろな話せる友人です。今後は村の催しに参加したりして、視野を広め、友人をたくさん持ちたいです。
私が和島村に望むこと、現在物足りなく思うことは二つあります。一つは若い方、同世代の方の活力があまり感じられないことです。仕事に忙しくそれどころではないのかもしれないが、村の未来を担う者として、地域活動や行事の中心となっても良いのではないかと思います。もう一点は和島村の歴史と豊かな自然を多くの人に知ってもらい、伝え、守っていく機会がないのを残念に思っている点です。遺跡が発掘され、村史も刊

行されているとのこと。詳しい方を講師に、村の歴史講座を持ったりまた、動植物に詳しい方、園芸や畑のことに詳しい方などを講師に、気軽に参加できる催しがあれば、一人一人がもつと身近に村のことを考えられるのではないかと。そういったお教室のようなものがあればもつと心豊かになれ、楽しいのにと思っています。
和島村へ来てまだ僅かですが、季節が移る度、またこの歴史を少しずつ耳にしたりする度、村の奥深さに驚かされます。ここへ来て本当によかった。ゆっくりとこの村に馴染んでいきたいと思っています。

人口の動き

	11月末人口
人口	5,327人 (+1)
男	2,583人 (+4)
女	2,744人 (-3)
世帯数	1,290世帯(+2)
	()内は前月比

○お詫びと訂正○
先月12月号の3ページで、漢字に誤りがありました。また、5ページで佐藤初雄さんと船越美與榮さんの名前が間違っていました。
ここに深くお詫びし、訂正いたします。

- (正) 船越美與榮 (誤) 船越三代栄
- (正) 佐藤初雄 (誤) 佐藤初男
- (正) 木簡 (誤) 木管



和島村長 久須美 逸郎

年頭の御挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年を御家族お揃いでお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。旧年中は、村行政の推進に対しまして御指導・御鞭撻を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げる次第であります。昨年、年明け早々島根県沖にロシア船籍のタンカーが座礁し、日本海沿岸に流出した重油が漂着致しました。当村は海岸を有しないものの、長年寺泊町並びに山田地区の御好意により落水海水浴場として海岸をお借りしており、特に現在は、オートキャンプ場との連繋の中で、海水浴場を開設致しております経緯から、役場内に対策本部を設置し、職員を中心と致しまして青年夢来・商工会青年部・郵便局職員他一般ボランティアの皆様方の御協力を得、厳冬の中、長期に渡り対応を図ったことは記憶に新しい出来事でありませぬ。

この年の初めの事件が象徴する様に、国内経済におきましては、金融機関と生命保険会社の倒産、並びに戦後最大の負債額であります証券会社の倒産等が相次ぎ、バブル経済崩壊以降の経済不況と相まって、国民の経済不安や政府の行政指導等に対する不信感を抱かせ、国外におきましても事件・事故及び株価の暴落と大変激動の年でありました。

また、思いもよらぬ米価の下落は、農業者の経営計画は勿論のこと生活を脅かす事態を生み出し、国の基幹産業であります農業において、後継者問題や自立的経営が実施展開されている中、米価を下げ、減反の強化をすることも政府の施策であることは、誠に如何なものかと思つた次第であります。

更に、政府は新年度予算編成より行財政改革に伴う全体予算の縮減を打ち出し、公共事業費におきましては七〇%の抑制が示されました。これらの措置は、現在まで順調に進捗しております圃場整備事業や特環公共下水道事業・集落排

水事業等大型プロジェクト事業に影響を及ぼすと共に、自ずと国道一一六号線バイパスの早期開通、並びに郷本川の河川改修、阿弥陀瀬トンネル等国・県の大規模プロジェクト事業の遅れも懸念されることから、指導機関をはじめ関係機関等に対しまして鋭意陳情・要請を申し上げている次第であります。現在和島村は、過去からの累積された債務の償還のピークを迎えており、予算編成におきましては、過剰な債務の償還を最優先しなければならぬ状況下であります。

同時に、財政再建が急務な課題であり、効率ある対応が求められている状況において、それら検討を重ねる過程の中で、積極的に職員の経験的意見を聴取し、行革委員会の答申を踏まえ、事務事業の見直しと共に課の整理統合を図り、人件費の抑制と効率ある事務事業に向け、先般十二月定例議会におきまして機構改革案を提出致した次第であり、新年度には新たな体制で臨む所存であります。

しかしながら、周囲を取り巻く諸環境は非常に厳しく、現状には経済状況等悪い材料が整いすぎ、明るい兆しが見え隠れする今日ではあります。お年寄りが安心して暮らせる村づくり、「若者が夢と希望を持てる村づくり」、「子や孫に誇れる村づくり」を目指して、職員と一丸となって粉骨砕身努力して参る所存でございます。

また併せて、不用財産の処分も検討すると共に、職員に対しましても現状認識と自らのぬるま湯からの脱却を図り、行政の生き残りかけた職員としての自覚と責任を促し、そして、地方分権に絡んで叫ばれております職員の資質と能力の問題、並びに意識改革において一層の自己啓発を促す所存であります。

さて、昨年も下ノ西遺跡に続き大武遺跡と姥ヶ入り遺跡が発掘され、「遺跡の村」・「古代ロマンの村」として内外から注目を浴びており、先人達が残された大切な遺産として十分認識・評価を致しているところでもあります。

しかしながら、和島村の生命線であり、国道沿線の住民の皆様方の願いでもありますバイパスの早期開通は至上命題であることから、これ以上の工事の遅れを回避する対応と致しまして、昨年より発掘調査員の増員を図っており、国・県並びに関係機関に対しまして和島村の熱意と誠意を御理解いた

く中で、集中的な遺跡の調査と早期開通に向けての対応を鋭意お願い申し上げます。

おわりに、来るべき二十一世紀を目前に控え、今後、明治維新・戦後改革に次ぐ国家の大改革であります地方分権や規制緩和、更に公的介護保険法等新たな行政システムが導入されて参ります。また、

これらに相まって広域的市町村行政も本格的展開が余儀なくされて参り、行政需要の増大と共に、自ずと地域の総合的な行政主体であります地方公共団体が果たす役割は現在以上に大きくなり、特に、社会経済の情勢に的確に対応し、豊かで快適な安心できる地域社会形成への期待が求められるところでもあります。

しかしながら、周囲を取り巻く諸環境は非常に厳しく、現状には経済状況等悪い材料が整いすぎ、明るい兆しが見え隠れする今日ではあります。お年寄りが安心して暮らせる村づくり、「若者が夢と希望を持てる村づくり」、「子や孫に誇れる村づくり」を目指して、職員と一丸となって粉骨砕身努力して参る所存でございます。

平成十年という節目の年を迎えるに当たり、何卒一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。併せて皆様方の御多幸と御健勝をお祈り致しまして、新年の御挨拶と致します。



和島村議会議長 高橋 均

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

村民の皆様方ご家族お揃いで、輝かしい新年を寿ぎしこと、誠に慶賀にたえません。

旧年中は、村民の皆様方より村議会に対し、深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、下ノ西遺跡が発掘されて、飛鳥・藤原時代から平安時代にかけての遺物・遺構が多数発見され、八幡林遺跡を上回る貴重な遺跡群であり、これら先人の残してくれた遺跡が県内外の考古学研

究者の注目を浴びています。

本年は、清潔で快適な住環境整備のため「農業集落排水事業」、「特定環境公共下水道事業」が引き続き進められます。

少子化、高齢化に対する介護保険法が平成十二年にスタートする前提のもとに、それらに対応すべく体制を整えられます。

昨年国においては、大型証券会社、金融機関等の破たん処理策として預金保険機構（金融システム安定化のための緊急対策）が審議されました。

「地方分権」、「行財政改革」とますます地方の行財政は厳しい状況下にあります。

また、反面地方の力量が問われる時代でもあります。

これらを受ける議会もおお一層の努力が求められています。

昨年議会は、一昨年の議員定数削減にともない三常任委員会から二常任委員会に議会構成を一新し、より幅広く、行財政をみつめ、より「スリムな議会」を進めて行く覚悟であります。

地方議会人として初心にかえり、

村民の声の的確に村政に反映されるべく、議決機関として、より研鑽を積み、来たるべき二十一世紀に向けて最大限の努力をしていくよう決意を新たにしております。

本年も村民の皆様方の御支援・御提言を議会に賜りたくよろしくお願い申し上げます。

平成十年が村民の皆様方にとって、健康で幸多い年でありませう御祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

明るい家庭づくり 運動作文

和島村青少年育成村民会議
和島村教育委員会



わたしのいえのたからもの

桐島小二年 早川 まい

このまえ、うちのおとうさんが「しあわせは、お金ではかえない。じぶんの力でつくるものだ。」と、いいました。うちのかぞくがほしいのは、けんこうです。それが、たからものです。わたしは、小さいときからだがよわくて、なんかいにもゆういんしました。おとうとのるいも一さになるまえに、一かいにゆういんしました。るいがゆういんしているあいだは、とてもさびしかったです。



おかあさんの手つだい

島田小一年 たかはし あゆみ

わたしは、おかあさんのおりょうりがだいすきです。中でも、カレーが一ばんだいすきです。だから、カレーの日は、とつてもうれしいです。ある日、だいいころにいつてみると、おかあさんがカレーをつくらうとしていました。だから、わたしは、いつものことをいいます。「おつてほしい。」

とわたしできつたにんじん、じゃがいも、たまねぎなどをなべの中にいれました。

そして、あじつけです。わたしがカレーのルーをいれます。おたまの中に入れて、よくまぜました。おかあさんも、ぐるぐるとよくまぜてくれました。

「はいよ、あじみです。わたしは、おかあさんから、「小さいおさらを」こもつてきて。」といわれました。はじめに、おかあさんがあじみをしました。「おいしい。」

とおかあさんがいいました。つぎに、わたしがあじみします。おかあさんが、カレーをおさらにもつてくれました。たべてみると、とつてもおいしいので、わたしも「おいしい。」

といいました。わたしは、そのあじがだいすきでした。できあがると、おとうさんもちようどかえつてきました。それで、

やさしい家族

桐島小二年 山田 はなえ

お母さんのじつ家には、大きいおばあちゃんがあります。毎年、夏休みになると、わたしたちは、とまりに出かけます。二年の夏休みも、家ぞくぜんい

んで、とまりに行きました。すると、その日の夜、きゆうに大きいおばあちゃんの頭がいたくなって、びょういんに行くことになりました。わたしは、もうねていたのだ

一つ目は、足ゆです。足を入れるきかいに、三十ぶんぐらい足を入れてあたためます。そうするとからだの中のをわるいあせがでます。たまに、やりたくないときもあります。そういうときは、テレビや本を見ながらやります。

二つ目は、ジェットです。これはおふろにつけてあります。あなが二つあいていて、あわがぶくぶくでてくるやつです。おふろにゆうくりつかつていると、あせがでてきます。とてもきもちがよくなります。

つぎに、おばあちゃんがつくつたやさいをバランスよく、いっぴいたべることです。おばあちゃんがつくつたやさいの中で一ばんおいしいです。ある日、だいいころにいつてみると、おかあさんがカレーをつくらうとしていました。だから、わたしは、いつものことをいいます。「おつてほしい。」

けれど、どたばたしていた音で、目がさめました。どうしたのかなとふしぎでした。だけど、いっしよにねていたおばあさんが、「大きいおばあちゃんは、びょういんへ行つたから、心ばいしないでねてね。」と教えてくれました。だけど、わたしは、心ばいで、なかなかねむれませんでした。

その日から、大きいおばあちゃん、入いんすることになりました。手じゅつもしました。おじいちゃんやおばあちゃんが、かわりばんこに、そばについていました。お母さんの時もありました。お母さんが、びょういんとまつた時は、おばあちゃんが多ごはんを作つてくれて、わたしもお手つだいをしました。おせんたくも、おそうじも、みんなで、おばあちゃんのおつてつだいをしました。みんなが、

「早く大きいおばあちゃんが、なるといね。」おつていました。だけど、大きいおばあちゃんは、なかなかおつりませんでした。わたしがおみまいに行つた時、点をきして、はなに、ストローみたいなものを入れていました。大きなおばあちゃんは、わたしのことはわかつたけど、けいちゃんのことをおじさんとまちがえたり、お母さんのことをおばさんとまち

いいやさいは、トマト、きゅうり、なす、かぼちゃです。サラダやてんぷらにしてたべます。さいごは、イライラくよくよしないことです。イライラするとき、しんこきゆうをします。十かいくらいすると、イライラがなくなりません。音がくきいていると、イライラくよくよなくなりません。カラオケでうたうと、きもちも、すつきりします。

わたしは、一年生になつてからとてもじょうぶになりました。小さいときよりかぜもひかなくなりまし。これからも、けんこうにきをつけて、びょうきにならないようにしていきたいとおもいます。

おかあさんが、「なにかきつて。」というから、わたしは、「いいよ。」といつてくれました。それで、いっしよにカレーをつくりはじめました。

「はい、おかげさまです。」とつて、おじぎをしていました。とてもうれしそうな顔でした。わたしは、また、大きいおばあちゃんのうれしそうな顔を見て、よかつたなあと思いました。わたしの家ぞくは、みんなでたすけ合、やさしい家ぞくだと思ひます。これからも、家ぞくみんなでたすけ合つていききたいと思ひます。わたしは、家ぞくのみんなが大すきです。





はさみしようぎ

島田小二年 小林 夕里

この前の日曜日、お父さんとし
ようぎをしました。
わたしは、ふつうのしようぎが
できないので、わたしでもできる
はさみしようぎをしました。
一回せんで、わたしは、すぐま
けてしまいました。
二回せんでも同じで、あつとい
うまにまけてしまいました。
お父さんは、
「そんなんで、お父さんにかてる
のか？」
と、少しわらいながら言うので、
わたしは、
「わたしだって、本気でやれば、
お父さんにかてるもん。」
と、強がりを書いてしまいました。
それを聞いて、お父さんだけでな
く、わきにいたおじいちゃんも、
わらっていました。わたしは、何
だかやしくなつて、「こんどは
かつぞ。」と思つて、三回目のたい
せんをしました。
わたしは、ついに、かちました。
「やったー。」
と言つて、ばんざいをしました。
お父さんは、
「まけたー。」
と、言っていました。おじいちゃ
んが、

「おまえもまだまだだなー。」
と、お父さんに言っていました。
お父さんは、
「あーあ、もうちょっとでかてた
の……。」
と、おちこんだように言いました。
わたしは、こんどは、おじい
ちゃんやってみたくなり、
「おじいちゃん、いっしょにや
ろ。」
と言いました。おじいちゃんは、
ちよつとかんがえたようにしなが
ら、
「よし。やつてやろ。」
と言つてくれました。
おじいちゃんといせんしたら、
お父さんよりも強かったです。わ
たしは、五回もつづけてまけてし
まいました。おじいちゃんは、う
れしそうに、
「はっはっは。」
と、わらっていました。そうし
たら、近くにいたお兄ちゃんとお母
さんは、
「もう、あきらめた方がいいよ。」
と、言いました。
「ううん。わたし、かつまでや
つてみる。」
あきらめられないわたしは、そう
言いました。でも、お姉ちゃんだ



ぼくのおじいちゃん

桐島小三年 小黒 友也

けは、
「ゆり、そのいきでがんばつて！」
つて、おうえんしてくれました。
うれしかったです。がんばろうと
思いました。
おじいちゃんとの六回せん。つ
いに、わたしは、かちました。
「やったね。」
「ゆり、すごいじゃない。」
この間、家族みんなでおじい
ちゃんの前へ、お見まいに行きま
した。どうしてかというとおじ
いちゃんは、十月三十日からぐあい
が悪くなつて、県立吉田病院に入
院しているからです。
おじいちゃんは、十一月二十六
日に手じゅつを受けます。手じゅ
つをするおじいちゃんがおじ
いちゃんのつきそいで、病院にと
まることになりました。そうすると、
お母さんがしばらくの間、会社を
三時に帰つてきて、家のことをし
ます。ぼくは、お母さんが大変だ
なと思うので、おふろの水入れや、
せんたく物をたたみ、ごはんの後
かたづけなどを手つたおうと思
いました。
おふろの水入れは、さいしょに、
おふろの中を石けんであらつて、

かぞくのみんなが、よろこんでく
れました。わたしは、心の中に花
がパツとさいたようでした。ねこ
のミケも、ニヤーンとないて、
「やったね。」
と、言っているようでした。
また、ちようせんしてみたいで
す。
それからまわりをあらつて、さい
ごにシャワーを出してきれいにし
ています。はじめは、むずかしく
てたいへんそうだと思いましたが、
やつてみるとかんたんでした。
せんたく物を持たむことは、お
母さんが服を持ってきたら、ぼく
が全部たたんで、いつもおいてお
く場所におくのです。
ごはんの後かたづけは、スポ
ンジでお皿をあらひ、それから、す
すいでたなに入れておきます。
おじいちゃんとおばあちゃんが
いないとたいへんなんだと思
いました。そして、ぼくは、たま
におじいちゃんと遊んでいたの
とてもさみしいです。
おじいちゃんと、おばあちゃん
がいなくて、家の中が少しさみし
いし、学校から帰つてきても家に



ぎょうざ作り

島田小三年 佐々木 守

「ぎょうざ作つて。」
と、お母さんがいいました。今日
は日曜日。ぼくの家では、日よ
う日によくぎょうざを作ります。
きょうで二回目です。

ぼくと弟で作ることになりました。
た。なかみは、お母さんが作つて
おいてくれました。弟の貢もこの
まえいっしょにやつたので作りか
たは、わかつています。二人でか
わにみをつめはじめました。
十まい入りのふくろの分がおわ
つて十六まい入りの分をはじめた
とき、かわがやぶれてしまいまし
た。
「やぶれちゃった。」
とぼくはいいました。
それまでぼくと貢はずつとだま
つてやっていました。でもぼくがそ
ういったから、貢も

「あーあ、やぶれちゃった。」
といいました。
やばい、と思つてちがうさらに
のせておきました。
きにしなないでまた作りはじめ
ました。そのときお母さんは、そば
をゆでていたのでぼくがかわをや
ぶいたのをきづきませんでした。
そばのつゆができてお母さんが
テーブルのなべしきの上に、それ
をもつてきました。
ぼくたちがやつているのを見て
「一つやぶれてる。」
といいました。
ぼくは、みつかつてしまった、
と思ひました。
お母さんは、
「もういいから、お母さんがやる。」
といいました。もつとやりたか
つたから、ちよつとぎんねんだなど



なにをしてるかな?

桐島小四年 石塚 賢子

思いました。だけど、まだかわが
のこつているのでまた作りたいで
す。
夕ごはんの時おかあさんがぎ
ょうざをやいてくれました。
作つている時に、にんにくの
においがふうんとしました。ぼくは
にんにくがすきじゃありません。
おとうさんが、
「あつたかいうちになべろ。」
といったのですぐにたべました。
そしたら、にんにくのにおいはあ
まりしませんでした。みんなが二

私が学校にいるあいだうちの
なには、なにをしてくるかな。
お父さんはなにをしてくるかな。
お父さんは毎日銀行でしごとをし
ているけど、どんなことをしてい
るかよくわかりません。お父さん
が家でよくしていることは、本を
読むことです。夜、私が見ても
全然意味のわからない本を見て
います。私は、あまり本を読まな
いし、あまり小さな文字だと、ど
この行を読んでいるかわからなく
なるから、しんけんを読みません。
私が、お父さんに
「そんなに字がこまかい本、おも
しろい。」

コぐらいつつ食べました。
おばあちゃんが、
「ごちそうさま。おいしかった。」
「ごちそうさま。おいしかった。」
おとうさんも、
「ごちそうさま。おいしかった。」
「ごちそうさま。おいしかった。」
と、言いました。ぼくはぎょうざを
作つてよかつたと思ひました。
おかあさんが、
「また作つて。」
といったので、ぼくは、こんどは
やぶかないよう作ろうと思ひま
した。

と聞いたら、
「おもしろい。」
と言ひました。
なんでかなと思つたけど、や
つぱり本を読むのが楽しいんだと思
ひました。お父さんは、一度読む
と、最後まで読んで、話の身を
全部知ることが出来るから好き
み
たいです。
お母さんは、なにをしてくるの
かな。そうじやせんたくなどをし
て毎日たいへんです。一番たいへ
んなことは、私がへやをちらかし
て、かたづけることがとくにたい
へんみたいです。ちらかしたへや
をかたづけることに一日はかかる

ようです。

「かたづけなさい。」
と言われて、少しはかたづけけるけどほとんどかたづけません。でもお母さんがかたづけ、私が学校から帰ってくると、私のへやはとてもピカピカです。
「どうしてこんなにかたづくのお。」とびつくりしてしまいます。けれど私は、あまりやる気がないから出来ないんだなあと思いました。



ろくの一日

島田小四年 新保 達也

ぼくの家には、「ろく」という名前のねこがいます。ろくは、ぼくが一年生の時に、お姉ちゃんに拾われてきました。六月十八日に家に来たので、「ろく」なのです。ろくの一日は、とてもおもしろいです。

まず、朝五時位に目を覚まして二階に上がっていると、部屋の戸の前で、

「ニヤーン。」

とないで、お母さんを起こします。ときどき来ない時もあるけれど、毎日ご飯をもらいに、起こしに来るのです。

キャットフードのしまつてある戸だなの開く音がすると、今度は、「ニヤーン、ニヤーン。」

弟はどうかなあ。一体なにをすることが好きなんだろう。どっちかって言うと、自転車で遊ぶのが好きかな。いっしょにあそぶことがあるけど、意けんがあわないとよくけんかします。自転車であそぶ時は、きんじよで乗りまわしています。

うちの家ぞくは、いろいろなことをしていることが良くわかったような気がしました。

と、さつきよりも高い声を出して足の周りをうろちよろします。えさをあげると、うれしそうに食べます。えさを食べ終わると、畑か作業所に行きます。ねずみをとりに行くのです。

初めは、家の中にいたねずみをつかまえていましたが、家の中にねずみがいなくなったので、畑や作業所に行くようになったのです。

ろくは、今まで、何十匹もつかまえて来ました。つかまえたねずみは、たまに食べるけれど、だいたい見せるために、家の中に持って来ます。とつてきたねずみを見て、おばあちゃんは喜ぶけれど、お母さんは困っています。なぜな

ら、とつてきたねずみを、捨てなければならぬからです。

ろくは、昼間ねています。ろくのね方は、ふ通じやありません。人間みたいに、大の字になってねています。鼻などをさわると、手で顔をかくします。大の字になってねているろくを見ていると、「ろくは幸せ者だなあ。」と思います。

ろくは、お昼ご飯をもらうと、すぐに外に出て、坂のはじつこの草の生えている所にねころがってねます。そこは、一番陽が当たるところです。ろくは、陽の当たる所が大好きなので、毎日そこにいます。たまに、作業所にいることがあつて、ぼくが学校から帰ってくるまでいることもあります。

でも、冬は雪がふつていて寒いので、こたつの中で丸くなっていきます。

ろくは、田んぼに入るのも好きです。いねがあると、いねにかくれて鳥をとります。鳥もねずみと同じで、家の中に持つてきます。やつぱりお母さんは、困ります。ろくには、友達がいいます。となりの家にいる「ろく」というねこです。二ひきは、とても仲良しです。名前がにているから、なんだかおもしろい。

ろくは、夕方まで外で遊んでくれるけれど、夕ご飯の時間になると、朝、昼と同じ様に、

「ニヤーン。」

とないて、ご飯をねだります。ろくは、おながすくと、外から帰って来るのです。ご飯を食べ終わると、また、外へ遊びに行きます。今度は、何をするのかというと、庭に来るためきを退治するのです。でも、毎日負けています。

のらねことけんかをして、おばあちゃんが、「こら。」と、言わないといけません。ろくは負けると、きずをつけて帰って来ます。それをおばあちゃんが見ると、

「また、けんかに負けたな。」

おばあちゃんにしかられるろくだけれど、毎日ねる時は、おばあちゃんの所でねます。おばあちゃんのいない時は、お姉ちゃんの所でねます。毎日、おばあちゃんがおふろからあがると、ないて部屋について行きます。おばあちゃんを待っている間に、お父さんにつかまることもあります。こんなふうにして、ろくの一日は終わります。ぼくは、これからも家族の一員として、世話をしようと思います。



家族の仕事

桐島小五年 山田 陽一

ぼくのお父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの仕事は、とてもたいへんです。

お父さんの仕事は、えい業セールスで、カメラ機材のとん屋(小さなお店)につとめています。いろいろな出張などで、帰ってこない日が多めにあります。ふだんの日は九時前に帰ってくるので、たまにゲームなどでぼくと遊んでくれます。ぼくも、たまに、お父さんにマッサージをしてあげます。

次に、お母さんの仕事はというと、老人保健しせつ「てらどまり」という所で、お年よりのかいごをしています。お年よりの世話を毎日するので、とてもつかれるようです。

夜きんあけの日には、お母さんにもマッサージをしてあげます。お母さんは、いつもにこにこしながら、

「ありがとう。」

と、言ってくれます。ぼくは、「お年よりの世話ってとてもたいへんなんだなあ。」と、

思いました。おばあちゃんの仕事は、新聞配達です。朝早く起きて、六時ごろに、早川さんという新聞を持って

くる人が、家に新聞を置いていつてから、おばあちゃんはその持って、新聞配達に出かけます。

一区だけだけれど、かなりの家の数で、三十分もかかってしまいます。時々、ぼくが休みの日に手伝ったりもします。早く終わると、おばあちゃんうれしそうに、「ありがとうね。また手伝ってもらおうかね。」

と、言ってくれたりもします。ぼくは、「早起きも、たいへんなんだなあ。」

おじいちゃんもまた、たいへんな仕事です。農業の仕事です。苗を育てて、こしが痛む。苗を田んぼに植えて、こしが痛む。いねをかるのに、こしが痛む。ずっとこのくり返して、おとし、仕事の中に事故にあい、手じゆつをしたこともありました。ぼくは、そんなあぶない仕事を

するおじいちゃんがかわいそうになつて、おじいちゃんの仕事を手伝っています。仕事が終わった後、おじいちゃんにもマッサージをしてあげます。「ああ、気持ちいいなあ。ありがとうな、陽一。」



私とおばあちゃん

島田小五年 本合 真奈美

私のおばあちゃんは今年で八十四才になり、友達などのおばあちゃんに比べると少し年をとっています。年をとつてくるせいか耳が聞こえなかつたり、歩くのもぎこちなかつたりでゆっくりゆっくり歩きます。

だから話しかけても「んー?」「なにー?」となかなか話が通じなくて、「もーいー!」「もーいー!」

と、言つて話をやめてしまいます。家のろう下を歩くのも赤ちゃんがハイハイをするみたいにゆっくりゆっくり歩いて、じやまになつてしかたありません。「どいて!」「どいて!」「じやま!」「じやま!」

と、言つておばあちゃんをおしのけていきます。「じやまてやあるか!」「しかたないんだっけ!」

伝いをすることや、マッサージをしてあげることくらいですが、ぼくは、これからもみんなのために手伝いやマッサージを続けていこうと思つています。

とおばあちゃん。「じやまなもんはじやまなの!」「じやまなのじやまじやまないなんて言えないの!」

ただおばあちゃんは知らん顔。「聞こえないのかなあ……」と思つながらまた会話はと中で終つてしまいました。そんなおばあちゃんの習慣。それは、足をマッサージしてくれるみたいな機械を毎日やっていると、それと亡くなったおじいちゃんのお参りです。せんこうをあげて、おきょうをとなえることを毎日やっています。家族は最近だれ一人やろうとしないのに、おばあちゃんたった一人だけでやつてえらいと思つています。ただ問題もありました。足が悪く、お参りをするときの正座ができないのです。しかたがないのでイスを使っています。でも、おじいちゃん毎日、き

ちんとお参りをするおばあちゃんを見て許してくれたと思います。おばあちゃん、体が不自由なのにいつもなにか仕事をしようとします。

家族のためにやっているのではなか？

それもあるかもしれないけど私は、ずっと昔の六十代のころと同じようにしたいんじゃないかなあ………と思います。

それは、昔のように元気に仕事が出来たいんじゃないかと私は思います。

そこで私は九月十五日敬老の日におばあちゃんへ何かプレゼントをすることにしました。

お店に行ってプレゼントが売っているところに行くといろんなものがありました。

はんでんやセーターなどがありました。

けつきよくお金の関係もあつてくつ下にしました。

冬、足がひえないように暖か



父が体験させてくれたこと

桐島小六年 早川 裕貞

昨年十一月に、ぼくは、たまたま父の働いている会社へ行く機会がありました。父が会社に仕事着を忘れてきたのを取りに行ったの

でした。

父が働いているのは、寺泊の鈴民という会社です。鈴民では、ミシンの一番大切な部分を作ってい

ます。

その日、いっしょに行つたのは、何か買ってもらえるかもしれないと思つたからです。これまでにも二、三回行ったことがありました。

行つた時に、大きな機械を見て、こんな機械でミシンを作っているんだなとおどろかされました。

工場には、ミシンを作るところばかりでなく、大きな食堂もありました。桐島の体育館よりも広いように見えました。ぼくは大勢の人が働いているんだなと思いま

た。父は、この食堂で、母の作つてくれた弁当を食べます。母は、毎朝、父と姉と自分の弁当を作っています。いつも五時半ころ起きています。母は父の健康を考えて、おかずの種類を考えたり、色どりに気をつかったりしています。

父は時々残業で夜九時ころになることがあります。それから夜勤もありません。だから、母も弁当などいろいろ父のことを気づかうのだと思います。

このように忙しい父ですが、休みの日になると遊んでくれます。ずつと以前、父とゴルフに行きました。その時ぼくは、初めて父と、ゴルフをしました。父がぼくの後ろについて、ぼくの手をつかんで、クラブを振りまわりました。

ぼくが打つと、ちよつとしか飛

びません。けつこうむずかしいなと思つた。父は、ぼくよりも遠くに飛ばしました。そして、「もっと遠くに、飛ばんだぞ。」といっていました。でもぼくは、ほんとうか、わかりませんでした。となりの人は、すごく遠くの方へ飛ばしていました。

ぼくは、父からお金をもらつてジュースを買いました。ゴルフ場のグリーンを見ながら飲むジュースは、とてもおいしかったです。

その後、ヨネックスオープンへも連れていってもらいました。その時に優勝したのは、尾崎直道でした。ぼくは幸運にも、直道プロとあくしゅをしてもらいました。とてもうれしかったです。

父のおかげで、一生に一度の体験ができました。ぼくも、タイガーウッズみたいになれたらいいなと思つていました。

ぼくは今年、中学生になります。少しは大人になりたいと思います。そして家族や父のためにできることをしていきたいと思つています。



捨てねこのモモ

島田小六年 小林 聡一郎

ぼくの家にはねこがいる。このねこは、ぼくが二年生の冬に家に来た。そのねこは、捨てねこだった。

そもそもこのねこは、家に来る前日作業場に現われた。それも突然。まさかそのねこが次の日にぼくの家に来るとは思つてもい

なかった。だから悩んだ。家には犬がいる。犬とねこは仲が悪い。もしケンカでもしたら、大変なことになる。結局ねこは飼うことにした。なんだかんだ言つてもうちの家族はねこが好きだ。家族が一人多くなつたみたいで楽しいからだ。

しかしねこと犬のケンカは現実になつた。ぼくが犬の散歩に行こうとしたら、ねこが玄関から出てきて、ねこと犬のにらみ合いになつた。ぼくは思いっきり引っぱるが犬は動かない。ねこもそこを逃げることにすらしらない。そしてぼくはもう一回思いっきり引っぱる、走つて散歩コースへ行つた。これでケンカはおさまつたと思つた。しかし家の近くへ戻るとねこの声

がした。「ニャーオン」。ぼくはこの声にきょうふを感じた。

「またケンカになつたらどうしよう。」

ぼくはとつさに他の場所に犬をつなぎねこを家の中に入れた。そして犬を小屋に入れた。やれやれ。

ねこが来て一ヶ月。名前をつけることにした。姉以外は誰でもいいのだが、なぜか姉は悩まずまっ先にモモという名前を主張した。僕は何でもよかったのだが、モモという名をぼくは気に入らなかつた。モモという名前を聞くと果物の名を思い浮かべるから、そこでぼくは、「もも」といい名前にしろ。」と言つた。そうすると姉は、「じゃあ、あんたもねこの名前、考えてよ。」

ときつい言葉が返つてきたので、「じゃあいいや。」と思つた。結局ねこはモモという名で呼ばれることになつた。名前が決まつた所で、モモを家に入れるか、このまま作業場においておくか迷つた。祖父や祖母は「ねこは外からのみやダニをつけて来るし、真夜中にはなくからやめよう。」

という意見で、姉と母は、「ねこはかわいいし、家の中に入

れるだけで家族が一人増えるみたいだから入れよう。」

と言つた。そんなことを話し合ひ続けて一週間。モモはかぜをひいた。それがきっかけでモモは家に住めるようになった。なぜか治れば作業場にもどす、という条件で、それ以来モモは家に住みついた。それから家の新築が決まつて家をこわした。ねこは普通、家が変わると住みつかないが、モモは住みついた。次の新しい家にも、犬とも仲よくやつている。

ぼくが五年生の時、モモは他のねことケンカした。そして左足をけがした。ぼくはそれを見て、「これはすごい。」

と思わず声をあげたほど。しかし傷は浅く一週間で治つた。母が毎日ねこ専用の傷薬をぬつて手当てしたためだろう。モモはとも小さい猫だ。「捨てねこだった時、



家族の大切さ

北辰中一年 小田 香菜子

いことです。

私には、小学校五年生の弟がいます。少しおっとりしているけど、やさしくて、明るく、とてもバスケットボールの好きな男の子です。その弟が、四年生のときの事です。弟は難しい病気にかかり、新

濁の病院に入院することになりました。その話を聞いた時は、おどろきと同時にすごくショックでした。「なんでよりによって、弟がこんな病気になるなければいけないのか……」。私はすごく神様をうらみしました。それは、私だけでなく、家族のみんながそう思ったにちがいありません。でも、病気に立ち向っていかなければいけません。弟は、家族とはなればなれになりませんでした。そして、大好きな学校と友達とも……。弟は、五カ月の長い間、よくがんばっていました。私達家族は、週末になると、弟に会いに病院に行きました。弟は、私達が来るのをずっと楽しみにしていて、私達を見るとちよつとはずかしそうにするけど、すごくうれしそうでした。毎週毎週弟の顔を見にいこううちに、だんだんと弟が大きくなっていくように思えました。もし、私が弟のような立場になったらどうでしょう……。すごく心細くて毎日がいやになると思います。でも、それをのりこえた弟は、「強いんだな」と思いました。私達が帰るときになると、弟はすごくさみしそうな顔をします。そんな弟を見ていると、私のほうまでつらくなってしまいました。家に帰る車の中はだれ一人しやべらず、ずっと沈黙が続きました。家に帰ってもみんなすごく静かです。火の消えたような、



だんらんの大切さ

北辰中二年 諸橋 芳子

私の家では、毎日七時ごろから九時ごろまで、夕食を食べながらとか、テレビを見ながら、一日のいき事を話したり、自分の考えを言いあつたりする、だんらんの時間がある。

しかし、休みの日に家族で出かけたり、私の家のように食事を一緒にしたり、話をしたりというだんらんの時間がない家もあると思う。たぶんその理由は、面倒くさいとか、家族全員がそろう時間がないとか、話すこともないからつまらないなど、この他にもいろいろあると思う。でも、だんらんがないせいで、家族の仲も悪くなつて、朝の「おはよう」でかける前の「いつてらっしゃい」や「いつてきます」。家に帰ってからの「おかえり」。「ただいま」。寝る前の「おやすみ」など、家族ではあたりまえのあいさつがなくなつたり、自分さえよければそれでいいと考えるようになるのかもしれない。ひどく考えすぎかもしれないけれど、もしいじめにあつていて人がいたとして考えてみると、家族でのだんらんがあれば、みんなに相談したりできるけれど、なければ、話す機会もないから、ずっとその

そんな毎日がずっと続きました。弟はなりたくてなつた病気がやありません。なのにすごくがんばつていて、と思うとかわいそうだなみだがつきました。

弟もがんばつていっているんだから、私も弟に負けず、しつかりがんばろうと、小学校の勉強や委員会の仕事などを一生懸命にやりました。それは、弟のことで心配だらけの両親に、少しは明るいニュースをあげ喜んでほしい、少しでも両親の笑顔が見たかったし、元気になるのもいいから、早く弟の病気が治つて、また前みたいにな家族になりたい。とずっと思い、願つていました。

そして、夏休みになりました。毎日私は家に一人ぼっちで、弟がいる私の友達がうらやましくなりました。いつもはよくけんかして「弟なんかいいじゃない」と思つていたのに、本当にいなくなつてしまつたと、こんなにさみしいものかと思つきました。

手術の日が決まり、その日がだんだん近づいてきました。毎日父と母のどちらかが必ずいなくて、手術当日は、三人も家族が欠けてしまつてしまいました。私も手術の日は一中心配で、学校へ行つても、気持ちが悪くつきませんでした。「今どうしているのかなあ。手術は成功したのかなあ。いろいろな気持ち

ちが私の頭の中でぐるぐる回つていました。夜おそく、父からの電話で、手術が無事に終わったことを知らされましたが、それでも弟のことが心配でねむれませんでした。今すぐどこでも弟の所に行つて、「がんばつたね」と声をかけてやりたい気持ちで一杯でした。

三日後病院に行つてみると、すごく元気そうな弟の顔を見て、思わず笑つてしまいました。「これでもう終わったんだ」と思うと、すごくうれしくなりました。でも、まだ何日か入院しなければならなかつたけど、手術が終わつたせいにか、みんな安心して、家の中にも少しずつ明るさが増えてきました。

退院の日、弟はお世話になつた先生や看護婦さん達に見送られて、笑顔で私達のところへ帰つてきました。両親は感動したのか、少し泣いているようでした。私もすごくうれしくて、泣きそうになりました。

よく日、早速弟は母と、大好きな学校と友達のところへあいさつに行きました。弟は、つらい毎日をのりこえ、病気に勝つことができました。弟はもちろんすごいと思うけど、家族も、みんな協力し合い、とにかく弟の事を助けなければとよくがんばりました。

られなかった。それに病名が、くもまつか出血という重い病気だったので信じたくなかつた。この日は暗くつらい時間をすごしたのは初めてだった。みんなから出てくる言葉は、「お父さん大丈夫だよね」の一言だけだった。家には姉、祖父、私だけで、母は付き添いで父と一緒に病院へ行つたので、七人家族から二人も抜けてしまった。たつた二人だけと思うかもしれないけれど、家族みんながいつもそつろつているのがあたりまえの私の家では、その二人が大切なのだ。次の日になると、親戚のおばさんが家に来てくれた。しかし、笑顔で話す気持ちにはなれなかつた。

一ヶ月後、父は退院した。この父の入院でよくわかつたことが二つある。一つ目は、家族の一人一人の大



我が最愛の友の教え

北辰中三年 加勢 恵実子

私の家族でもある、我が最愛の友は、決して話さない。全て目と目で会話する。時々、話さなければ互いの意志を伝える事が出来ない人間がバカらしく思えるほど、輝いた瞳で私に話しかけてくる。「今日は何かあつたの？」

「家族」それは、だれかがつらかつたり、苦しかったりしたときには「そんなの大じょうぶ」と元気をくれる。だれかがうれしかつたときには一緒に喜んでくれる。私の家族は、みんな協力して、苦しいことをのり越えることができませんでした。これは、一人ではできないことだと思います。家族が励まし合つてがんばつたからこそ、のり越えられたのです。家族つて、各自がのびのびと個性的な生き方をしながらも、他を思いやり、自分の短所をおさえ、長所を出し合つて協力して生活していると思つています。私はふと、思うことがあります。「わが家で私の役割であるのだろうか……」。私の笑顔がだれかの元気となつていっているのだろうか。でも、これだけはわかります。私は家族のみんなに甘えながらも自分を支えてくれる家族のみんなに感謝して、いつも「ありがとう」を忘れずにいます。心を「ありがとう」でいっぱいにして……

私は、私の家族がとても好きでとても大切です。一人でも欠けてはいけません。私にとって家族はいつまでも私の一番好きな人達であつてほしいと心から願つています。家族は、私が大事にしている宝物なのです。

切さだ。私の家の場合は二人だつたが、これが一人でも、二人でも考えることは一緒だと思つけれど、家族が少しでも減ると、いつも、いない人のことばかり心配になつたり、話はずまなくてつまらなかつたりするからだ。二つ目は、やっぱりだんらんについてだ。家族の一人一人を大切に思うのも、仲がよくなるのも、だんらんをするからだと思う。

私は家族だんらんのおかげで、学校でも、家でも、いつも元気に過せるのだと思つた。なぜかという、何があつても心配してくれる家族がいるからだ。

私はこれからも、このだんらんの時間をずっと続けていきたいと思つた。そして、家族全員の気持ちをちゃんとわかつてあげて、助けあつていきたいと思つた。

そうだ。この友達には、私がどんなことをしても付いて来てくれる。私を喜んでわかってくれる。「人間つて何でバカな生き物なの？口でしか相手をわかつてあげられないなんて。相手の目をよく見てみなよ。汚い目をしている人な



わし麻呂くんの部屋

～生涯学習情報～



めざせオリンピック!
— 少年教室 —

少年教室では11月30日(日)、県立柏崎アクアパークを会場にスケート教室を行いました。

最初は靴のヒモさえ結ぶことのできなかった子ども達も、30分程指導を受けた後はスライスイ。中には転んでばかりいる子もいましたが、真剣に練習する子ども達もみながプロスケーターの腕前に!?

時間がたつのも忘れ、氷をも解かす勢いで「鬼ごっこ」などを楽しむ。わしまつ子達には、この会場は狭すぎかも。世界中の海がスケート場になればいいのに…。

ケガもなく、無事に帰村した子ども達がこの日の夜に見た夢は、きっと、長野オリンピックのリンクの上に立つ自分だったかも…。

第5回 村民ソフトバレーボール大会 東保内2連覇!!



11月30日(日)、公民館主催の第5回村民ソフトバレーボール大会が勤労福祉センターで開催されました。

大会は、6人制バレーボールコートを使い、6人制とし、うち2名以上の女性が入る等、特別ルールの中で行われました。

女性だけのチームも参加し、終始なごやかな雰囲気での大会となりました。

結果は、次のとおりです。

優勝 東保内チーム
準優勝 サインはVチーム(駅前)
第三位 新田チーム

村民スキー&スノーボードツアー

in 舞子

参加者募集!!

公民館主催の村民スキー&スノーボードツアーin舞子を計画いたしました。

今年は、塩沢町の舞子後楽園スキー場です。みなさんの参加をお待ちしております。

◇ 期日 …… 1月25日(日)

◇ 会場 …… 舞子後楽園スキー場
◇ 募集定員 …… 80人(定員になり次第締め切ります)

◇ 参加料

◎ 大人 …… 2,500円

◎ 高校生 …… 2,000円

◎ 小・中学生 …… 1,500円

◎ 幼児 …… 1,000円

◇ 申込み

1月14日(水)までに公民館(教育委員会)へお申し込みください。
※詳しくは、公民館へお問い合わせください。



んていないんだよ。

いじめ等が激しく、この世の中で我が最愛の友は、こう目で訴えているようで、いつも、その目を見るたびに私の胸はしめつけられる。

我が友との出会いは、今から六年以上も前の事である。北海道から遙々やってきた我が友は、お腹の中に子供がいる二児の母であった。我家に来た当初は、よく毛がぬけ、ハゲがたくさん出来ていた。ストレスという大きな敵が、その小さな体に乗しかかっていたのだろう。それから、あつという間に一年が過ぎ、二年が過ぎて、今に至ってしまった。たくさんの事があつた。出産、そして子供との別れ…。私とも、たくさんお話ししてたくさん遊んで…。私が我が友に

してあげた事って何だろう?…考えても出てこない。それに対してしてもらった事は?…両手におさまらないほど、多くの事を教えてもらった気がする。生き方について、人間という生き物について、互いを信じ合う事について、生きる事について…。全て、口で言うのではなく、輝く瞳で教えてくれたのだ。

「ガリバー旅行記」という、誰もが知っている物語を読んだ事がある。ガリバーという人が、巨人の国、小人の国、天空の国ラピュータ等を、次々と旅していくお話だ。その中に「馬の国」という国

が登場する。もちろん、ガリバーはそこに行き、いろいろな事を学んだ。その「馬の国」は、馬達が人間の言葉を理解し、全て目と目で会話をする国である。ガリバーは、その国の馬達と目で多くの事を話し、学んだ。馬達も、ガリバーの話を聞き、人間に住む、私達の国について多くの事を学んだ。ガリバーは「馬の国」の馬達のすばらしさ、自分達人間の愚かさについて学び、馬達は、人間達の技術のすばらしさを学んだ。ガリバーと「馬の国」の馬達が、あまりに私と友にそっくりでおどろいた。互いに学び合い、互いに尊敬し合う、目と目だけのすばらしさ。なんとすばらしい事だろう。

私は今、今まで温室に育つてきて初めての人生の別れ道に立たされた。高校受験という、とても大きな壁である。自分の生き方について、多くの事について悩み、考えなければならぬ。そんな私に對しても、友は、その輝く瞳で返してくる。

「人生なんて悩むもんじゃない。進むものだよ。悩まないで進んでごらん。エスカレーターに乗ろうとしなくていいよ、ゆっくりに歩いて行こうよ。」

「どうしてか気持ちを伝える事の出来ない私達と、目でしか気持ちを伝えることの出来ない我が最愛の友。どっちが偉いの?…って考えたら、きっと、その輝く瞳はこう答えるだろう。

「どっちも同じ、一本の直線の上を平等に歩いているんだよ。どっちが偉いというわけでもないし、どっちが悪いというわけでもない。それが私達、生物なんだよ。」

「きつと、我が最愛の友は、私の進む道を、ただ頷いて付いて来てくれることだろう。」

こうして、私の家では動物を通して考え、語り合うことがよくある。その中で学ぶことは、前述し

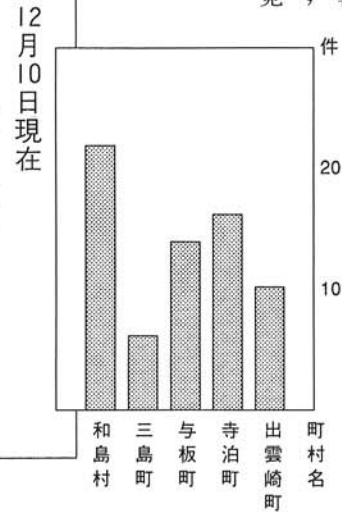


毎月第三
日曜日は
「家庭の日」



飲酒運転検挙者数

12月10日現在
23
人



和島村・和島村交通安全協会婦人部

「飲酒運転 絶対しないが 合
い言葉」を運動スローガンにして
おこなわれた年末の交通事故防止
運動。なぜ、和島村民に飲酒運
転者が多いのか？飲酒運転は必ず
防げるものです。強い信念と自覚
で飲酒運転0をめざしましょう。

警告 (緊急警報)

木の葉もすっかり落ち、木枯ら
しの吹く寒い日、保育所からは子
供たちの元気な歌声が聞こえてき
ました。11月27日(木)、地域ふれあ
い活動の一環であり、子供たちが
待ちに待ったもちつき大会が行わ
れました。
いよいよもちつきが始まると、
子供たちの「ヨイショ」の掛け声
で、おじいちゃん、おばあちゃん
がつぎつぎにおもちをついていき
ました。子供たちは、おじいちゃ
ん、おばあちゃんと一緒におもち
を食べながら、一足早い正月気分
を満喫しました。

**おいしいね
つきたてのおもち**



**第2回
村民ボーリング大会
参加者募集 !!**

体育協会主催の第2回村民ボー
リング大会を計画いたしました。
みなさんの参加をお待ちしてお
ります。

- ◇期日……2月1日(日)
- ◇会場……ヤヒコラビットホール (送迎有り)
- ◇参加料……2,000円(ゲーム代・貸ツツ・飲物・賞品含む)
- ◇参加資格……高校生以上の村民及び村内事業所に勤務する者。
- ◇募集定員……50人(定員になり次第締切ります)
- ◇参加申込……1月5日からの受付とし、1月20日までに体育協会事務局(教育委員会)へ申込みください。



**あたたかい善意
ありがとうございます**

12月8日(月)、10月に開催された生涯学習フェスティバルでフリーマーケット及びチャリティイベントが行われ、その収益金から、社会福祉に役立ててほしいと村社会福祉協議会に次の方よりご寄附をいただきました。
厚くお礼申し上げます。

- ◇チェッカーマットレス、オーバーターブル
ゆきわり会(代表 早川富士子)様
いきいき市場(代表 藤田 正義)様
ひよこクラブ(代表 柄沢 律子)様
小林 恵美子様
佐々木理江子様
小谷松 泰之様
大倉 真紀子様
早川 洋子様
- ◇車いす
青年 夢米様



8月に開所しました「工房ゆきわり」で、12月3日(木)、ちよっと早いクリスマスパーティーが行われました。
ボランティアの人による、楽しい歌や手品、サンタクロースのプレゼントなど、作業の合間の楽しいひとときでした。
工房ゆきわりは、小島谷の和島村農業研修センター内で、毎日、和気あいあいと楽しく作業を行っています。

メリークリスマス



12月7日、14日の日曜日、幼稚園、保育所の園児による生活発表会が行われました。
子供たちは、この日の為に一生懸命練習した劇や楽器演奏、合唱をお父さん、お母さんに披露しました。
ちよっと緊張した様子で見守る父兄とは反対に、子供たちは元氣いっぱい、上手に発表しました。

生活発表会



各部落で推せんされた健康づくり推進員さんの7回にわたる研修会が11月13日に終了しました。
この研修会で学んだ栄養や、運動など、健康づくりのための知識や技術を、より多くの人に伝えたいと、はりきっています。
これから部落での活動を始めます。若い人から、お年寄りまで、ぜひご参加下さい。

**はじめませんか
健康づくり**



**暮らしの
ポイント**

比較的日持ちする食品でも、上手に保存しないと風味が落ちたり変質したりします。買い置きは、食品の特性に合った方法で温度と湿度を管理してください。

買い置き食品の保存と再生

ノリは外気に触れると変質します。開封後は、乾燥剤と一緒に茶筒かタッパに入れて保存してください。
お茶は、茶筒に移し替えてしまふより、アルミバツフに入れてままだにしておく方が湿気を防げます。使うときには必要な分だけ小出しにし、残りはバツフの口を折り、輪ゴムやクリップをかけて密封しておきましょう。
しけつたり香りが飛んでしまった緑茶は、フライパンでカラ炒りすれば、おいしいほうじ茶に生まれ変わります。
バツフ入りのおもちは、開封するとすぐに表面がびび割れて固くなってしまいます。そんなときは、ペンチで小さく砕き、天日に干してから乾燥剤と一緒に缶などに入れて保存します。油で揚げて塩をふれば、おいしい

保存の状態と量を点検しながら

おやつになります。
賞味期限を迎えてしまった牛乳は、鍋にかけて沸騰直前まで加熱し、冷ましてから冷蔵庫に入れておけば、さらに三日ほど保存できます。それでも余ったときは、ホワイトソースを作り、一カップずつ分けて冷凍すれば、スープやグラタンづくりに活用できます。
塩を長持ちさせたいときは、容器の中に炒ったコーヒー豆を二粒入れておくと、湿気を防いでくれます。また、米びつには生の唐辛子を入れると、虫よけに効果があります。
ただし、保存技術を過信するのは禁物です。保存期限の目安をわきまえて、買い置き食品の保存状態と在庫量をまめに点検して、無駄なく使い切ることを心掛けてください。



おしらせ

information

1月の救急診療のご案内

1 休日の救急診療

(1)内科・小児科・外科・歯科の昼間（午前9時～午後6時）

長岡市健康センター内（長岡市西千手2-5-1）
 ・長岡休日急患診療所 ☎35-8255
 ・長岡休日急患歯科診療所 ☎33-9644（午後4時まで）

(2)産婦人科および夜間

区分	在宅当番医院	午前9時～翌午前9時
診療科目	産婦人科	内科・小児科・外科・産婦人科
1日祝	明石医院	長岡赤十字病院
2日金	斉藤医院	長岡中央総合病院
3日出	小林医院	立川総合病院
4日日	丸岡医院	長岡赤十字病院
11日日	トマト・レディス・クリニック	立川総合病院
15日祝	杉本医院	長岡赤十字病院
18日日	明石医院	長岡中央総合病院
25日日	長岡西病院	立川総合病院

1月の納税・納入

- ※ 村民税……………第4期分
- ※ 国民健康保険料……………1月分
- ※ 国民年金保険料……………1月分
- ※ 幼稚園保育料……………1月分
- ※ 保育所保育料……………1月分

第15回全国都市緑化にいがたフェア 講師募集のおしらせ

第15回全国都市緑化にいがたフェアでは、「花」や「緑」の文化に興味のある方や、花緑に関する新たな技術や知識を習得し、その楽しみ方を深めようとする方を対象に体験講座、デモンストレーションなどの体験型催事を実施します。実行委員会事務局では、この「花と緑の体験型催事」に参加して下さる講師を募集しています。グリーン&フラワーワークショップ…フラワーデザイン、押し花等、花やグリーンを使った作品制作の教室、ガーデニングスクール……………コンテナガーデン、生け垣作り等、ガーデニング技術の教室、ネイチャースクール……………創作教室、環境学習等、子供を対象としたアウトドアの楽しみ方を学べる教室
 参加申込書は役場・地域振興課にあります。申込み締切りは平成10年1月31日です。詳しくは下記へお問い合わせください。



第15回全国都市緑化にいがたフェア
 実行委員会事務局
 ☎025-285-5511（内線3354）
 担当：催事課 本間、松田

1月10日は110番の日

110番すると、警察本部の通信指令室につながります。

◆こんな時は110番！

- ・事件や事故を見たとき。
- ・ドロボウ等の被害にあったとき。
- ・倒れている人を見たとき。
- ・不審な人、車を見たとき。
- ・その他、急いで警察に知らせたいことがあるとき。

110番すると、県庁（通信指令室）につながり係員が「何があったのですか。その場所はどこですか。何か目標となる建物がありますか。（住宅明細図を使用しています）」など必要事項をたずねますので、落ち着いて対応してください。

◆110番5つのポイント

- ①何があったか？（交通事故、ドロボウ、ケンカなど）
- ②いつ、どこで、目標は？（いまから何分前、何町、何ビル前）
- ③事件・事故の内容は？（普通乗用車と大型トラックの衝突で、ケガ人が2人います。救急車も必要です）
- ④犯人は？（人数・人相・服装・車のナンバー・逃げた方向など）
- ⑤あなたの住所・氏名・電話番号



・今いる場所は？（事件・事故との関係）

事件・事故が発生したとき、犯人の早期検挙や被害者の救助など迅速でかつ適確な処理が必要となります。そのためにも、110番通報を積極的に利用してください。なお、次のような用件の場合は、次のところへ連絡してください。
 ◆事件・事故以外の相談ごとで、特に急がなくてもいい場合は：警察総合相談室をご利用ください。（☎025-1283-19110または#9110）
 ◆地理案内、忘れ物、拾い物等の用件は：与板警察署・交番または駐在所へ直接連絡してください。

臓器移植に関する法律が施行されました

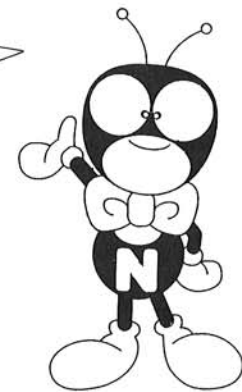
10月16日に「臓器の移植に関する法律」が施行されました。この法律は、臓器の移植についての基本的理念を定め、移植医療の適正な実施に資することを目的としております。「臓器を提供する」、「臓器を提供しない」は個人個人の自由意思であり、いかなる強制も受けません。この機会に、移植医療について考えていただければ幸いです。お問い合わせは、役場・住民課までお願いします。

ふとんの接触 危険です。 ストーブまわり。



国民年金 ちょっと いい話

住民課 ☎74-3111 内線255



変わります
 年金受給権者現況届の
 村長の証明が
 廃止になります

国民年金及び厚生年金の受給権者が年に一度、誕生月に提出する現況届の村長の証明が、平成10年1月以降に提出期限が来る人からいらなくなりします。ただし、現況届は必要事項を記入し、押印のうえ、忘れずに提出して下さい。未提出の場合、年金が一時停止されることもあります。ご注意ください。なお、特別支給の老齢厚生年金

の支給を受けている人が65歳になったときに提出する「国民年金・厚生年金保険老齢給付裁定請求書（はがき形式）」には、これまでどおり村長の証明が必要です。

源泉徴収票が届きます

国民年金、厚生年金保険及び船員保険から支給される老齢年金を受給しているみなさんに、社会保険庁から「公的年金等の源泉徴収票」が、平成10年1月31日までに交付されます。

平成9年の1年間に支払われた年金の総額、源泉徴収税額、控除の内容等が記載されています。老齢年金は、所得税法第三十五条の規定により、「雑所得」として取り扱われています。源泉徴収される人は、原則として所得税の確定申告をする必要はないことになっていますが、年金以外に給与等の所得がある人などが、確定申告をする必要があるときに、この「公的年金等の源泉徴収票」は添付書類として必要になります。

なお、老齢年金から所得税が源泉徴収されたか否かには関係なく、老齢年金を受給しているみなさん全員に「公的年金等の源泉徴収票」は送付されます。



歳時記

初夢に故郷を見て涙哉
 一茶（寛政句帳）

初夢

初夢は正月に初めて見る夢といふことばはだれでも知っています。さて、あなたは初夢をいつ見ますか。元旦の朝ですか。二日の朝ですか。これ、実は時代により、地域により、また家によっても違っていろいろです。室町時代には、元旦の暁の夢だったとか、江戸時代は二日の朝の夢だったともいわれています。江戸の商家などでは、大晦日は除夜の鐘まで起きているので、二日の夜の夢が初夢だったのでしょうか。また、古くは立春の朝の夢を初夢としたようです。

初夢合わせなどといって、初夢で吉兆を占う風習は古くからあったようです。江戸では宝船売りが、いい初夢を見るようにと宝船の絵を売り歩いていた。猿枕といつて



皆さんの地区でも取り組んでみませんか

— 荒巻健康モデル地区活動紹介 —

荒巻地区は65歳以上の方が多く、に、大年齢が少ない地区です。元気で長生きするため「地区で健康を考えよう」という目的で平成8、9年度モデル地区として取り組んできました。



平成8年度活動より 荒巻の問題点

どうも塩分、油とりすぎ!! 酒も多いな!

高脂血症、肥満、糖尿病が多いようだ。

平成9年度 11月「味」の勉強 (60代...15名参加) (40、50代...18名参加)

— 塩分に注目して昼食会 —

60代のお母さん方が調理担当。若い方は健康増進車で体力測定。昼は手づくり料理を囲みおいしく健康を考えました。健康寸劇もとびだし楽しく幕を閉じました。モデル地区としては今年で終了ですが、今後も地区で健康を考えていきたいとのことでした。

今年 は 寅年

今年(寅年)は虎は干支の三番目、食肉目ネコ科の動物です。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、虎は「アジアの百獣の王」です。ウスリー(ロシアと中国の国境地帯)、中国大陸、朝鮮半島、東南アジアなど、温帯から熱帯地方にかけて広く生息していますが、日本列島には野生の虎はいません。



日本の文献に初めて虎が登場したのは『日本書紀』で、欽明天皇の六年(五四五年)に、百済で虎退治をして、その皮を日本に持ち帰った人がいるということが記されています。生きた虎が日本に来たのは寛平二年(八九〇年)といわれ、その後、江戸時代には、虎は見せ物として江戸・大坂(大阪)などを回っていたようです。

多くの人が虎を見られるようになったのは、動物園が普及するようになったからです。しかし、虎はことわざなどによく登場し昔から親しまれています。だれでも知っている「虎の子」は、大切なもの、秘蔵のものということ。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」も、虎の子が貴重なものとい

う意味から、危険を冒さなければ(虎の住んでいる穴に入らなければ)成功は得られないということ。 「虎刈り」は、丸刈りがはやらなくなつたので、最近あまり見かけません。「虎の巻」は、もともとは兵法の秘伝を記した書物のこと。以前は、学生さんなどが参考書などをこう呼んだものですが、この言葉もはやらなくなりました。また、虎は強いもの、恐ろしいもの、たえにもよく使われます。「虎視眈眈」「虎の威をかる狐」「虎の尾を踏む」「虎は千里往つて千里還る」「虎は飢えても死肉を食わず」「虎は死して皮を残す」など、枚挙にいとまがありません。ただし、酔っ払いの大トラはいただけません。



ところで、今年の年賀切手の意匠の題材は、福島県の郷土玩具「三春張り子の虎」です。これは、郡山市にある通称「デコ屋敷」で作られている張り子の玩具です。デコというのは、木偶のことで、木彫りのデコに紙を張って張り子を作ります。職人さんの仕事場が集

健康づくり推進について (モデル地区活動を終えて)

戦後の経済社会の発展と併せて生活改善も進み、国民の平均寿命の伸びも目を見張ります。昭和の初期の平均寿命は四十から五十才と言われましたが、現在では、男性七十七才、女性八十四才と、大きな伸びを示しております。

しかし、その一方で若年層の成人病の発病や死亡も多発しております。これらは、労働状況や生活体系、あるいは食生活などが大きな起因と考えられます。労働状況や生活体系については、個々で対応し、改善することが不可欠と考えますが、食生活については、地域の問題として健康づくりを推進しなくてはと考え取り組んで参りました。

- ・ 四十代、五十代の御夫婦による食前、食後の血糖値の推移
- ・ ある夕食時の一食におけるカロリー、塩分、糖分摂取量の把握
- ・ 六十代の奥さん方の料理を食しながらの味の濃さ、薄さの勉強
- ・ 保健婦による、体力測定とスト

まっているのがデコ屋敷で、ここで作られている「三春駒」も、昭和二十九年の第一回の年賀切手に採用されました。

三春張り子の虎は「腰高虎」といって、腰を高く上げて威嚇している威勢のいい姿が特徴です。でも、見たところ、とてもかわいいう話しています。「このデコは江戸時代のもので残っていて、新しいものもその形を踏襲しています。江戸時代には虎を見た人はほとんどいなかったもので、猫がモデルになったのかもしれない。」



レッチ体操の指導
座談会では地区の老人介護の問題等々の活発な話し合い
まだ限られた年代での活動ですが経過を踏まえながら、地域の心身の健康づくりを皆で考えてゆく方向で推進してゆきたいと考えております。

荒巻区長 倉部 昭一

我が地区でもやってみようという声があればぜひお聞かせ下さい。

— 住民課・保健婦 —



「献血」で支えられている命があります

●冬は血液が不足する
血液を人工的につくりだすことは、まだできません。輸血用の血液は、すべて献血によってまかなわれています。しかし、増加する血液需要に対

して、ここ数年、献血者の数は減少する傾向をみせています。特に冬は、昼間の時間が短いため、午後の献血者が少なくなり、例年、血液が不足しがちです。輸血用血液は、毎月一定の量が必要で、常に新しい血液を確保しなければなりません。一人でも多くの方に、献血にご協力いただくことが望まれています。

●若い世代の協力が不可欠
献血者の約九〇%が、十六〜四十九歳の青壮年層。それに対して輸血用血液の約八〇%が、五十歳以上の方々に使われています。社会の少子・高齢化は、今後ますますに進みます。輸血を必要とする高齢者が増える一方で、献血を担う若い世代は減少し、輸血用の血液はますます不足すると予測されています。

そこで、二十歳代の若い方々、特に成人として社会に第一歩を踏み出そうとしている人を対象に行っているのが「はたちの献血」キャンペーンです。

毎年、成人の日を中心とした一か月間、献血の重要性を呼びかけ、社会の一員として進んで献血に参加することを求めています。「自らの血液を分け与えるボランティア」とも言える献血。輸血を必要とする患者さんたちにとっては、あなたの思いやりがなくてはならないのです。

“和島村認定農業者”に新しく10名の方が認定されました

きびしい農業情勢が続いていますが、和島村の基幹産業は農業に変わりはありません。

次代へ受け継ぐ農地は、その時代にふさわしい整備をして後世に渡さなければならぬと思

います。誰かが守らなければ農地は荒廃し、その集落の機能まで失われかねません。

和島村では今後も農業を続け、農地を守ってくれる人、農業をやる気の人を支援してゆきます。

今回も大型ほ場整備事業を奨めていきます保内地区より次の方々の経営改善計画が認められ、去る11月5日付けで認定農業者として認定されました。(敬称略)

- 。小林 豊 東保内
- 。山口 浩一 両高
- 。山口 敏彦 両高
- 。谷川 昭一 両高
- 。池浦 正己 両高

— 認定農業者制度 —

この制度は、経営規模拡大や集約化、複合化等により農業経営の改善を図り、和島村が目標として掲げているような望ましい経営を目指し、意欲的な農業者が作成した農業経営改善計画



詳しいことは農業経営改善支援センター(役場産業課内)にお問い合わせ下さい。